

2014年度 春学期 授業アンケート「教員コメント」の「FD委員会総括」

FD委員会

<座学>

1, 参加型授業への取り組みや学生からの質問など、アクティブラーニングにむけてさまざまな工夫をされているご意見がありました。お若い先生は自分なりの授業スタイルの確立を目指し、年配の先生は一度確立された授業スタイルの変更に努力している様子が伺えました。

2, 矛盾する授業方針とそのバランスに配慮されている意見が多くございました。配付資料・パワーポイント・板書をどのようなバランスで授業に取り入れていくのか、また複数の先生が「分かりやすさ」と「奥深さ」の両立についての検討をなさっておられました。

<演習・実習系科目>

1, 少人数教育ということもあって、「アンケート結果は良好であった」としているコメントが多くございました。プレゼンテーションやレジメの作成を身につけさせることを目的とする先生のうちで、「必要な技術は一通り教授できた」と記した方もおられました。

2, 学生の積極性を引き出すことに着目したコメントが目立ちました。「大学授業の華はディスカッションである」というユニークなコメントがございましたが、一方で「口の重たい学生」や「消極的な学生」への対応に、多くの教員が苦慮なさっていました。

<語学>

1, 授業が進むほどに、修得に遅れがちな学生と、語学力に優れた学生へと分かれていくようで、そこにクラスでの対応が難しくなっていく語学教育の特徴があるようです。

2, 教員が一人一人の学生に対してどれだけ丁寧に接するかという問題に帰結しているようで、授業中や授業直後の質問時間の確保を考えている先生もおられて、本学の語学教員が、学生への個別指導に多くの時間を割いている様子が伺えました。

<総括>

1, 本学の学生が真面目であることへの高評価が散見されるとともに、アンケート結果に一喜一憂する、これもまた真面目な本学教員の姿が見て取れました。コメントをいただいた各教員の授業改善に取り組む姿勢は積極的でした。授業の改善に取り組んでおられる先生方のご努力に対して、FD委員会としては敬意を表したく存じます。

2, 一部の学生が記述している要求と、先生の授業理念との間に齟齬のあることがございます。そうしたケースの場合、アンケート記述から授業の改善点に気付くことも大切ですが、アンケート記述に安易に引きずられないことも大切であろうと存じます。また記述されていないことにも、有用な情報が含まれていると考えるべきでありましょう。教壇に立つプロフェッショナルとして、各教員の適切な解釈が求められるのだと存じます。

3, 本学は教員一人あたりの学生数が極めて多く、質の高い教育を維持していくのはとても大変なことだと存じます。しかし、厳しい大学環境の中にあつて、教育に力を注がれる先生方のおかげで、本学の学生は「教員との距離が近い」と感じてくれています。FD委員会として先生方の日々のご尽力に厚く感謝を申したく存じます。